

(6) 帰化植物 (きかしよくぶつ)

帰化植物というのは、人間が、よそからもちこんだ植物が自然にふえたもので、古い帰化植物と、新しい帰化植物がある。

大昔の帰化植物	昔の帰化植物	新しい帰化植物
・エノコログサ・ヒガンバナ	・スイバ・ハコベ・ナズナ	・セイヨウタンポポ

最近になってわが町で見かける帰化植物は、ビロードモウズイカ・トゲチシャその他がある。セイヨウタンポポ、ヒメオドリコソウなどもすさまじい勢いで増えている。

【ビロードモウズイカ】 (ゴマノハグサ科)

この植物は、最近当地にふえてきた。全体にビロードのような毛でおおわれて、河原や道路わきのコンクリートの割れ目や舗装の砂や土のたまったところなどに生え、丈も1~2メートルとなる黄色い花をびっしり咲かせる。

ビロードモウズイカは、もともと、地中海沿岸^{えん}原産の2年生植物で、各地に帰化して増えている。



【アメリカヤマゴボウ】

(ヤマゴボウ科)

ヨウシュヤマゴボウともいう。(洋種山牛蒡) 北アメリカ原産の多年草である。この植物は、明治の初期に日本に帰化した植物である。

花は、6~9月に咲き、白またはうす紅色で、黒紫色の果実がなる。

【トゲチシャ】 (キク科)

ヨーロッパの原産の帰化植物で、荒地などに増えている。

茎や葉の裏側に刺^{とげ}がある。花は、7~9月に咲く、人里近くで見かける。

